

情報公開文書

研究課題名	経乳頭的胆嚢ドレナージにおける ERCP 開始体位工夫の有用性
研究体制	<input checked="" type="checkbox"/> 長野赤十字病院が責任研究機関となる <input type="checkbox"/> 他施設が責任研究機関となる共同研究 （責任研究機関： ）
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>消化器内科</u> 氏名 <u>伊藤 哲也</u> 当 院 所属 <u>消化器内科</u> 氏名 <u>伊藤 哲也</u>
研究期間	（西暦） 承認日 ～ 2026 年 11 月
研究の概要	<p>（研究の意義・目的）</p> <p>経乳頭的胆嚢ドレナージ（ETGBD）は、胆嚢穿刺が困難な胆嚢炎症例に有効な手段ですが、胆嚢管の同定に難渋することがあります。ウログラフィン®の比重は胆汁より大きく、胆管短軸断面では、胆嚢管分岐部の方向が重力方向に近いほど理論上胆嚢管が造影されやすくなります。今回、事前の画像検査で同定した胆嚢管分岐方向に基づき、胆嚢管が造影されやすいよう重力方向を考慮した体位で ERCP を開始し、その有効性を評価することを目的としました。</p> <p>（研究方法）</p> <p>2018 年 7 月から 2025 年 3 月までの間に、胆石性胆嚢炎に対して ETGBD を実施した症例を対象とします。事前の画像所見に基づき、ERCP 開始時の体位を工夫した群と、特に工夫せず腹臥位で施行した群の 2 群間で、患者背景や胆嚢管分岐方向、処置に要した時間、胆嚢管造影のために使用したデバイスや偶発症などについて後方視的に比較します。胆嚢管分岐の方向は、CT や MRI の胆管横断面において、腹側正中を 12 時、背側正中を 6 時と定義します。</p>
試料・情報	<p>（試料・情報の項目）</p> <p>カルテデータ（CT や MRI などの画像データ、内視鏡所見、カルテの記載）</p>
研究対象者	<p>2018 年 7 月から 2025 年 3 月までの間に、胆石性胆嚢炎に対し経乳頭的胆嚢ドレナージを受けた方が対象となります。</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報の保護	<p>収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。</p>

お問い合わせ先	<p data-bbox="496 219 746 253">〒 3 8 0 - 8 5 8 2</p> <p data-bbox="496 271 948 304">長野県長野市若里五丁目 2 2 番 1 号</p> <p data-bbox="496 320 695 353">長野赤十字病院</p> <p data-bbox="496 369 975 403">所属 <u>消化器内科</u> 氏名 <u>伊藤 哲也</u></p> <p data-bbox="496 461 1187 495">TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439</p>
---------	---